■大澤壽人　「神風協奏曲」の作曲家だったため，日本の近代音楽史上，もっとも不当に扱われてきた音楽家のひとり。
おおさわかずと
韓国反日暴動1907＝　神戸で，イギリスに留学し神戸製鋼の創業に参画後大澤工業を起こした技術者兼企業家の子に生まれる。

明治天皇没・1912＝ 5歳：

_クリスチャンの母親の導きで，少年期からオルガンや合唱に親しみ，

民本主義・・1916＝ 9歳：

原敬首相暗殺1921＝14歳：関西学院中等部に入学，

_神戸在住の白系ロシア人ルーチンや，スペイン人のヴェラヴェルディに本格的にピアノを習い，

治安維持法・1925＝18歳：同学院高等商業学部に進学後は，
_学校のグリークラブ・管弦楽部・ミサの合唱指揮者として活躍し，学外でも神戸オラトリオ協会を設立して演奏活動を行い，ピアノの腕にも磨きをかけ，理論を独習し，神戸で名を知られた音楽家となる。

海軍軍縮条約1930＝23歳：卒業。ただちに*アメリカに渡り，ボストン大学とニューイングランド音楽院に入って作曲等を学ぶとともに，亡命してきたシェーンベルクの授業にも参加して刺激を受ける。師匠たちから才能を買われ，権威ある奨学金をうけ，元駐日大使フォーブスの後援で自作発表会を開き，
満州事変・・1931＝24歳：
国際連盟脱退1933＝26歳：_日本人として初めてボストン交響楽団を指揮して，前年作曲の小交響曲を自作自演。ピアノ協奏曲第1番でバチェラー・オヴ・ミュージックの学位を得る。多数の作曲をして，アメリカでの学業を終えると，
帝人疑獄事件1934＝27歳：_パリに行き，エコール・ノルマルに籍を置いて一流音楽家に師事し，交流する。
芥川直木賞始1935＝28歳：_コンセール・パドゥル一管弦楽団を指揮して自作の交響曲・ピアノ協奏曲を発表し，絶賛される。
二二六事件・1936＝29歳：*日本の伝統と西洋の最先端を併せ持った独自の様式を確立して，6年ぶりに帰国。ただちに，欧米での成果を発表するも，未熟な日本の聴衆の評価は得られず，再び欧米で活動しようとも，国際情勢の悪化で不可能になったため，日本の情況と自らの創造性とをギリギリのところで折り合わせようと努力をし始め，
日中戦争始・1937＝30歳：_最初の重要な産物たる交響曲第3番に，3年後の皇紀2600年に標準をあわせて「建国の交響楽」という副題をつけ，日比谷公会堂での作品発表会で初演。
健保+総動員 1938＝31歳：_続いて，国産新鋭航空機"神風"に捧げたピアノ協奏曲第3番を制作し，大阪朝日新聞主催の"大澤壽人作曲指揮愛国交響大演奏会"で，「神風協奏曲」という副題をつけて自らの指揮で初演。以後も，社会的要求に添った音楽を提供する職人に徹して，戦時期を生き抜こうと，
大政翼賛会・1940＝33歳：_"皇紀2600年奉祝"のため，大規模平明なカンタータ「海の夜明け」「万民奉祝譜」を発表，ラジオ向けに朗読と組み合わせた作品やセミ・クラシック風の慰安音楽を作り，宝塚歌劇団などにミュージカルを提供，
日米開戦・・1941＝34歳：
創価学会検挙1943＝36歳：
年金+総武装 1944＝37歳：*映画にも進出し，川島雄三監督「還って来た男」やマキノ正博監督「野戦軍楽隊」のためにも作曲，どの分野においても，当時の日本の作曲家の一般的水準を遥かに超えた職人芸を提供する。
敗戦・・・・1945＝38歳：
_演奏と聴衆の水準の底上という戦前からの願望を実現すべく，セミクラシックやポップス・ジャズの領域に乗り出してゆく一方，神戸女学院で教鞭をとり，舞台や映画のための作曲も続け，
新憲法公布・1946＝39歳：溝口健二監督「歌麿をめぐる五人の女」「女優須磨子の恋」，
新憲法施行・1947＝40歳：ジャズ風のサキソフォーン協奏曲，
極東裁判決・1948＝41歳：溝口健二監督「夜の女たち」，
三大事件・・1949＝42歳：「ペガサス狂詩曲」，
朝鮮戦争始・1950＝43歳：「トランペット協奏曲」など，_次々と作曲し，
独立回復・・1951＝44歳：
_アメリカのボストン・ポップス管弦楽団やコステラネッツ管弦楽団をモデルに自らのオーケストラを組織，NHK大阪放送局や朝日放送でレギュラー音楽番組を持ち，毎週，番組の構成から演奏曲目すべての編曲指揮にまであたる。
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝45歳：_教えを受けたシェーンベルクが逝くと，番組内に追悼コーナーをはめ込み，師の表現主義的な無調の様式による「6つのピアノ小曲」に新ウィーン楽派風のオーケストレーションを施して室内管弦楽曲とし放送。
ﾃﾚﾋﾞ放送始・1953＝46歳：吉村公三郎監督「夜明け前」のほか，*映画音楽担当も約30本に及んだが，あまりに忙しすぎ，念願だった交響曲第4番は一音符も書かれず，脳溢血で急逝した。
以後，日本の楽壇からすっかり忘れられる。

「神風協奏曲」CD解説，